

### 3. あたらしい憲法のはなし・民主主義 上下

(※ 関連資料のある箇所は太字で示してあります。)

#### 1. (1) あたらしい憲法のはなし

【木 田】そこで、そういう環境の中で、私自身が担当させられたのが『**あたらしい憲法のはなし**』(資料 3-1)、それから『**民主主義**』上(資料 3-2)・下(資料 3-3)という2つですね。この『**あたらしい憲法のはなし**』(資料 3-1)というのは、社会教育でみんなに、今度は憲法がこう変わりますという、選挙をやるから皆さん出てきてくださいというところにも使うもんですから、教科書という意味じゃなくて、参考書ということで広く一般の人にも読んでもらえるようなものをつくるという発想で進みました。だから、『**あたらしい憲法のはなし**』(資料 3-1)も、『**民主主義**』上(資料 3-2)・下(資料 3-3)も、憲法の話は選挙運動にも使えるというぐらいの気持ちで書いてもらった。それから『**民主主義**』の方は、これは戦後の日本改革の根本にわたることだから、本格的にちゃんと執筆者を動員して書きましょうということに動いたわけです。

たまたまそのときに教科書局というのは、庶務課と第1編集課と第2編集課という3課だった。それにもう一つ調査課というのができておりましたが、このころは割に気軽に課をつくったりつぶしたりしていますから、教科書局というのは、私が入ったころは庶務課、第1編集課、第2編集課と3課だったと思いますが、第1編集課というのは人文で、第2編集課というのが自然科学の関係の教科書をつくっておったと思います。それが昭和21年の3月には調査課が加わっていて、そこへ青木誠四郎先生という人が入ってきたんですね。調査課というのが、その次の昭和21年12月4日には教材研究課ということに変わっています。この青木誠四郎先生というのが、戦後のカリキュラム改革の基本線をおつくりになったなというふうに僕は思っているんです。坂元さんのおやじさんでしたかなあ、文部省から山口の教育学部長にお出になった……。

【有 蘭】坂元彦太郎さんですね。

【木 田】あの方が青少年教育課長をやっておられてある程度助言をしてくださったと思っています。